

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	K・Kプロジェクト	階数	地上5F
建設地	京都府京田辺市田辺沓脱41番、42	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域・第1種住居地域、防	平均居住人員	XX 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年7月 予定	評価の実施日	2010年11月25日
敷地面積	1,806 m ²	作成者	有田 千穂
建築面積	797 m ²	確認日	2010年7月10日
延床面積	3,381 m ²	確認者	〇〇〇



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 97%

③上記+②以外のオンサイト手法 97%

④上記+オフサイト手法 97%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9 音環境: 3.0, 温熱環境: 2.7, 光・視環境: 3.0, 空気環境: 3.0	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9 機能性: 3.0, 耐用性・信頼性: 2.9, 対応性・更新性: 3.0	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.7 生物環境: 2.0, まちなみ・景観: 3.0, 地域性・アメニティ: 3.0
---	---	---

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.9 建物の熱負荷: 3.0, 自然エネルギー: 2.5, 設備システム効率化: 3.0, 効率的運用: N.A.	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9 水資源保護: 3.0, 非再生材料の使用削減: 2.8, 汚染物質回避: 3.0	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.7 地球温暖化への配慮: 3.1, 地域環境への配慮: 2.5, 周辺環境への配慮: 2.7
--	---	--

3 設計上の配慮事項

総合	その他
各住戸は南・東に面した配置とし、大開口部やバルコニーに縦格子を設け、居住性の向上、京都の和を基調とした外観は周囲との調和を配慮した計画としている。また、建物に対して、適切な植栽計画、色彩計画に取り組んでいる。	照明環境は夜間の近隣への配慮を行い、防犯向上に隣地境界に沿ってフェンスや植栽帯、死角となる部分的には防犯カメラを設置する計画としている。
Q1 室内環境 住戸間の騒音レベル低減のため、界壁及び界床の遮音性能に配慮した計画としている。また、採光や通風に対し有効な開口部を確保している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内には和風庭園を計画し、外観との調和を図っている。
LR1 エネルギー 共用部には、LED照明機器を採用し、省エネに配慮した計画としている。	LR3 敷地外環境 駅に近接した敷地ではあるが、駐輪・駐車スペースを確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照された